

# 共同体の風景

## －沖縄における集落活性化計画－

### Keywords

超高齢社会 離島 過疎化  
空き家 共同体 自然 活性化



K09102 山中 雄太

### 1. 序

近年日本では急速な人口減少により超高齢社会が問題としてある。それが顕著に表れているのが離島である。

### 2. 研究背景

若者の島離れ、過疎化・高齢化、空き家の増加により、問題視されている集落が多々存在しているのが現状である。宮古島の西側に位置し、観光地の一つでもある来間島も例外ではない。人口168人に対し、高齢者の割合が87人と半数以上を占めている。また急速な人口減少により使われなくなった空き家・空き地が多く存在している。空き家の問題は深刻であり、放置し続けると島全体の景観の崩れや建物の倒壊にもつながってしまう。NPOや地方自治体も調査を始めているが、問題解決の糸口が見つからない状況である。

### 3. 研究目的

実際に来間島にフィールドワークに行き、島の方々と生活をし、一緒に問題意識を共有しながら、空き家増加の問題を解決し、同時に島全体を活性化をし、人々が島に定着していけるようなコミュニティ全体の計画を提案する。

### 4. フィールドワーク調査報告

#### 4.1 日程

2012年7月25日～2012年8月10日

#### 4.2 調査内容

1. 来間島の重要人物を中心にインタビュー
2. 17軒の空き家の活用調査・実測
3. 島全体の敷地調査

#### 4.3 調査報告

##### 1. インタビュー内容と結果

- ・若者の島離れについて
- ・移住してくる人について
- ・観光客について
- ・これからの来間島について
- ・空き家について

これらの5項目の質問を中心にインタビューを行い、実際に来間島についてどう考えているか、またどうしていきたいか、建築的な要望などを読みとってきた。

以下は島民の要望の例である。

- ・部落経営型の集合住宅
- ・家財収納施設兼宿泊施設(共同供養施設)
- ・島民経営型共同売店
- ・宿泊型体験施設
- ・島の作物を観光客を中心に購入してもらう島の駅
- ・伝統継承施設

この中から、1番要望が多かった集合住宅を中心に来間島が活性化するような設計を行う。

### 2. 17軒の空き家の活用調査・実測結果報告

a)既に島外者が住んでいる空き家が3軒、b)条件が合えば貸してもよいという空き家が4軒、c)貸さないという空き家が9軒、d)改築後貸す予定の空き家が1軒ということであった。本設計では、b)の4軒は老朽化は激しくないため、そのまま貸しに出し、c)の9軒は老朽化が激しいため、さら地に戻し、その敷地を使用することにする。

### 3. 空き家をさら地に戻すことの問題点と改善点

c)の持ち主の貸さないという理由のほとんどが、仏壇が置いてあり、年に数回仏壇の管理、祖先供養のために、帰ってくるかもしれないというものである。これについては、仏壇の保管場所と持ち主が帰省した時の優先宿泊施設を設けることで解決したい。その施設が共同供養施設である。空き家を取り壊す代わりに、共同供養施設を建設することで、持ち主が祖先供養のために帰島できるようにする。

また、空き家のほとんどは掃除はおろか、庭の手入れ、草むしりもしていない。老朽化も激しく、費用対効果の面から改築が困難であり、来間島の街並みや景観を崩してしまっている。以上のことから、老朽化が激しい空き家は取り壊して、新たなものを建築したほうが有効だと考える。以下の写真は空き家の調査写真である。いかに、来間島の景観を崩してしまっているかが確認できる。



写真1 手入れのされていない庭と表面が崩壊して、むき出しになった鉄筋

## 5. 敷地

沖縄県宮古島市下地字来間に位置する来間島。



図1 島全体図

図2 宮古諸島

### 5.1 敷地概要

来間島は、宮古島の南西約1.6kmに位置する島であり、周囲は約6.5km、面積2.84kmの小さな島である。同島には88世帯168人が生活している。主な産業はサトウキビや葉タバコの栽培である。c)の9軒の土地に加えてその他の空き家も使い、設計の敷地とする。図3の黒塗り部分が今回の計画敷地である。



図3 来間島集落詳細図

## 6. 設計概要

### 6.1 プログラム

Site1:集合住宅兼優先宿泊施設 24戸

Site3,8:定住プログラム参加者用住居 6戸,3戸

Site2,4~7,9:共同供養施設

共同供養施設は祭祀集団のブナカごとに分ける。スメリヤブナカはSite2とSite5、ウブヤブナカはSite4とSite6、ヤーマスヤブナカはSite7とSite9とする。

【定住プログラム】；トライアル方式(期間3~5ヵ月)

移住希望者に対して、農業などを体験しながら、島社会、共同体と関わっていきけるのかを一定期間住み込むことで検証してもらうプログラム。

【共同売店・移動式直売所】

高齢化が進んだ集落を維持していき、移住者と島民、計画敷地と島全体を繋げるためには、必要不可欠である。Site1に共同売店をつくり移動式直売所の発着点にする。

直売所で販売するモノは主に農家で栽培された作物を中心に日用品も販売する。Site1→Site8→site3と順に回

り販売していくことにより、敷地全体を繋げるとともに、周りの住人が買いに来ることを期待する。共同売店と直売所は買い物という行為を超えて人々が集まり、おしゃべりを楽しむ場所とする。農業という1つの軸によって集落全体を繋ぎなおす。

### 6.2 自然

建築は自然の影響を制御することが可能である。沖縄独特の気候・環境を楽しむために、厳しい暑さを和らげるための工夫を考える。風の道、防風林、パーゴラ、緑陰などを用いて、沖縄独特の自然環境を体で感じられる建築を目指す。

### 6.3 来間島独特の宗教観

来間島には、自然方位から45°ずれている民俗方位や東を神聖とし、東方を上位とするなどの様々な宗教観が存在しており、それらを計画に取り入れる。

## 7.設計手法

### 7.1 集合住宅

来間島にしか存在しないデザイン・プランニングを作り出す。実測調査を行った既存の住宅形式を手掛かりとし、造形していき、風の道や軒下の空間を作り出す。

風を通し軒下部分を使いこなすために、高床を使用する。



図4 実測図面



写真2 高床式住居

### 7.2 共同供養施設

矩形で軒が長く出た建物が整然と並べられた来間島に共同供養施設という宗教空間を計画する。構造はランドスケープの調和を図るためにRCとし、外観デザインは住居とは異質なシンボリックな空間であることを表現するために円柱とする。

### 7.3 外構計画

台風の影響を軽減させるために、防風林を使用する。台風は左回り(反時計回り)で左側(東側)で雨や風が強くなることから南東側に高木のフクギを、北東側には低木のハイビスカスを植える。集落形成が南東から北東にかけて成り立っていることから、軸線は南東→北東とする。それに直交するように風の道を作っていく。

### 参考文献

- 1) 象設計集団 「空間に恋して」 工作舎
- 2) 原 広司 「集落の教え」 彰国社
- 3) 松井 健 「儀礼と口承伝承～宮古群島来間島の事例を中心に～」

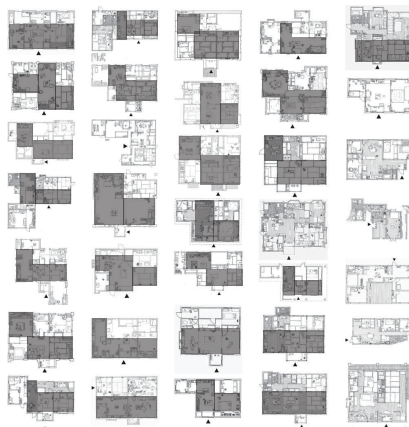
来間島の住宅形式から集合住宅を造形をする。実測図面・インタビューシートを基に住居の使われ方、各室の配置の特徴を探っていく。

1



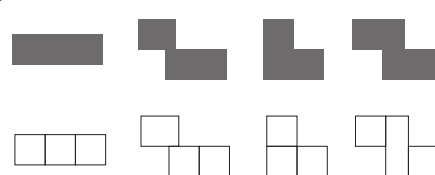
【全 35 軒の平面実測図】

2



【類型化を行う】

3



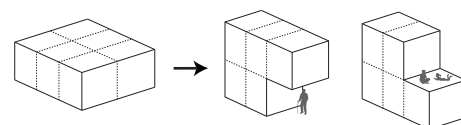
4 種類に分類できることが確認できる。

左から順に1番座、2番座、炊事場である。

これら3つの生活の中心となっている3部屋を【オモテ】と定義する。それ以外の裏座（子供部屋）と洗面室等を【ウラ】と定義する。

今まで1フロアレベルで完結されていた住戸を【オモテ】と【ウラ】の2フロアに積層させ、軒下の空間を作り出す。

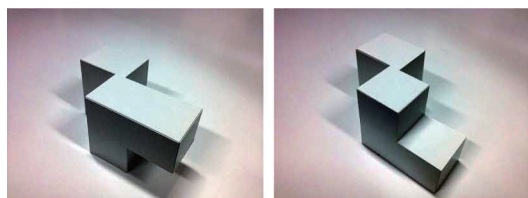
その空間は【風の道】や【移動式直売所】が住居内を縫ってまわるにより、さまざまなアクティビティが生まれる。



## Model

4 種類の類型化からモデルを作成。

1



Model A

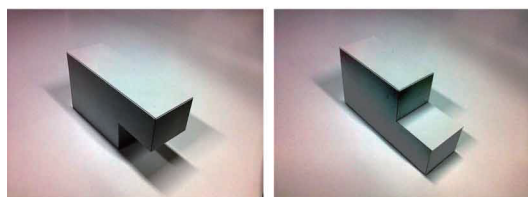
Model A'

2



Model B

Model B'



Model C

Model C'



Model D

Model D'

【8 Model】

【オモテ】が2階にくるモデル◇と【ウラ】が2階にくるモデル◇'の2種類、全 8Model。1Model で1 住居となり平面で完結されていた住居を立体化する。



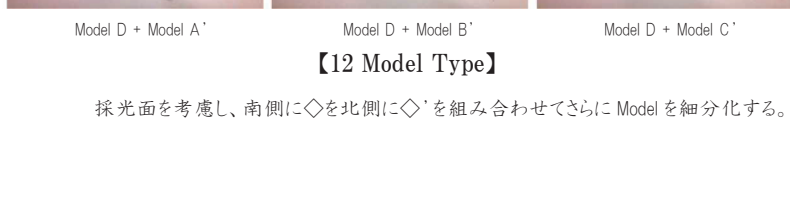
Model A + Model B'

Model A + Model C'



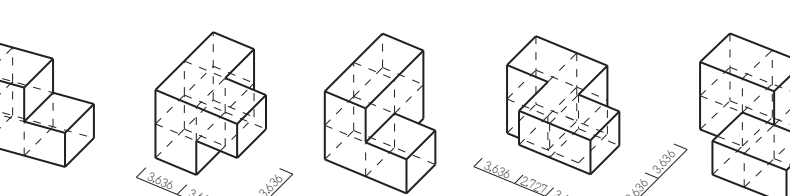
Model B + Model A'

Model B + Model C'



Model C + Model A'

Model C + Model B'

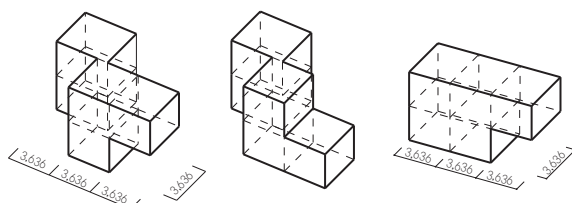


Model D + Model A'

Model D + Model C'

【12 Model Type】

採光面を考慮し、南側に◇を北側に◇'を組み合わせてさらに Model を細分化する。



【Model A】

【Model A'】

【Model B】

【Model B'】

【Model C】

【Model C'】

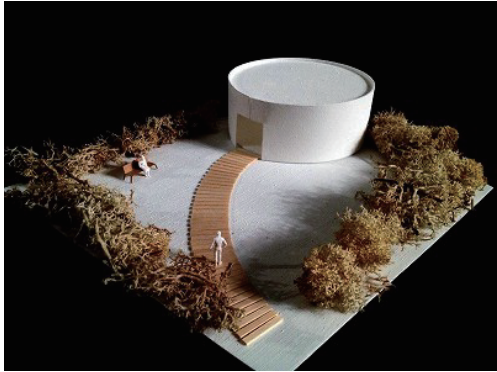
【Model D】

【Model D'】





【Site1 集合住宅】



【Site7 共同供養施設】

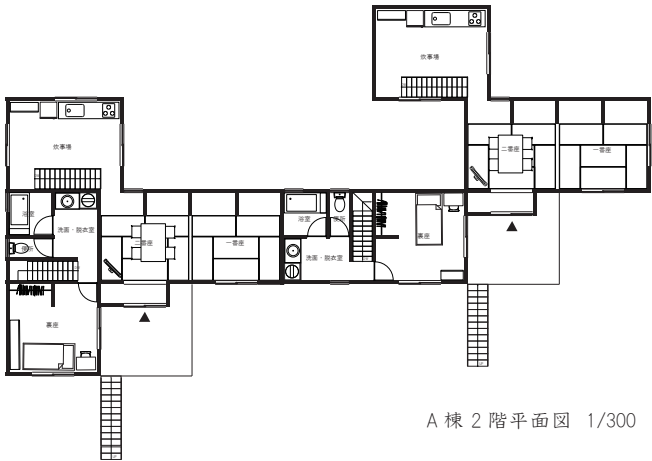
plan

Site1 の集合住宅は全 12Modelを使い 24 住戸である。  
それらをつなぎあわせ住居棟を軸線に沿って 3 棟形成していく。

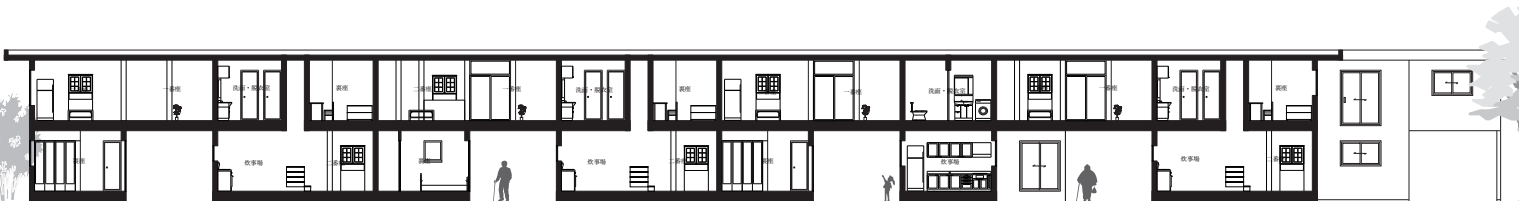
共同供養施設は、円柱を用いることによってシンボリックな建物に。



A 棟 1 階平面図 1/300



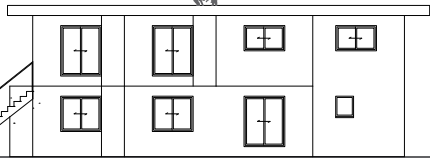
A 棟 2 階平面図 1/300



東西断面図 1/300



A 棟 南側立面図



A 棟 東側立面図



共同供養施設 断面図 1/300

共同供養施設 立面図 1/300